令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立　　高蔵　　小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

１．調査の目的

⑴　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

⑵　学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

⑶　そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２．調査内容

⑴　教科に関する調査（国語、算数、理科）

教科に関する調査（国語、算数、理科）
①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

⑵　児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

⑴ 全国・本市の学力調査（国語、算数、理科）の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	9.8	61	10.4	61
全国	9.2	66	10.1	63	10.8	63

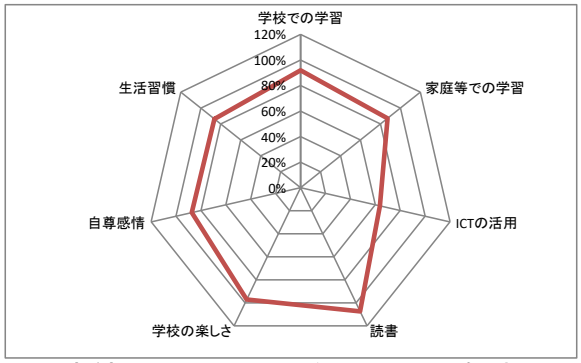
⑵ 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	本年度の本校平均正答率は、全国平均正答率より下回っていた。全体的に記述式の問題に課題がある。また、書ける児童と書けない児童の二極化が目立っている。書くことが苦にならない取組を、今後も継続していく必要がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える問題は、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける問題は、正答率が低かった。	

算数	全体的な傾向や特徴など	本年度の本校平均正答率は、全国平均正答率より下回っていた。全体的に記述式の問題に課題がある。問題のどこに着目し、何をどのように書けばよいのかを教え、書いて説明する学習を習慣化する必要がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述する問題は、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解する問題は、正答率が低かった。	

理科	全体的な傾向や特徴など	本年度の本校平均正答率は、全国平均正答率より下回っていた。実験結果を基に分析し、問題に正対したまとめに改善できるようにしたり、その内容を記述できるようにしたりする指導の充実を図る必要がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	問題に対するまとめを導きだすことができるように、実験の過程や得られた結果を適切に記録している問題は正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	観察などで得た結果を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる問題は正答率が低かった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

○「家で自分で計画を立てて勉強している」児童の割合は7割程度であるが、「土曜日や日曜日など学校が休みの日に1日1時間以上勉強している」児童の割合は2割程度であった。全校で自主学習の時間の目安（10分×学年）を示したり、個に応じた自主学習の量・内容・出し方を工夫したりすることで、自主学習の習慣を定着させる必要がある。
○「自分には、よいところがあると思う」児童の割合は6割程度であった。自己肯定感や自己有用感が高まるように、児童の成長を認め、適宜称賛するとともに、互いのよさを伝え合えるような場を設定していく必要がある。
○「5年生のときに受けた授業でPC・タブレットなどのICT機器の使用頻度が週3日以上である」割合が全国は6割程度であるが、本校は2割程度であった。情報モラル教育や職員研修を充実させ、様々な授業場面で積極的にICT機器を活用し、効果的な活用方法を職員間で共有できるようにしていく。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

○「学びの質を高める授業づくり5つのポイント」をおさえ、児童が「できた」「分かった」が実感できる授業を繰り返し実践する。（ICT機器を効果的に活用する。）
○全校一斉で朝の計算タイムを設定し、計算力の向上に努める。（繰り下がりのあるひき算、わり算、あまりのあるわり算を中心に）
○ドリルアプリ等を活用し、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図る補充学習を行う。

② 家庭生活習慣等に関する取組

○自主学習ノート（3年生以上）を活用し、「書くこと」を習慣化する内容を取り入れる。（日記、今日の学習の振り返り等）また、学年通信や学校通信を通じて、学習時間・学習内容・学習方法などについて、具体的に児童及び保護者へ啓発を行う。
○あいさつ運動やなかよしデー等、縦割りグループを活用した活動に継続的に取り組むことで、自尊感情が高まるようにする。